



## 令和2年度第1回 認知症疾患医療連携協議会を開催しました。

### ～ 新たなスタイルで～



8月24日（月）、標題の協議会を開催しました。今回は感染対策のため、一部の方にはオンラインで参加して頂きました。会場（当院）には地域から、伊左治先生（相楽医師会）、内藤先生（山城歯科医師会）、行政（京都府山城南保健所・

木津川市・精華町）、専門職の皆様など10名と、院内からは5名の計15名が参加、オンラインでは木津川市社会福祉協議会・ケアマネジャー（2事業所）の計3名に参加して頂きました。

今回は「感染症流行下における認知症の人の支援について」というテーマで開催しました。

COVID-19に伴い当院は例年にない状況にあります。地域でも、特に、認知症の人への影響が懸念されています。今回の協議会では、各現場でどのような取り組みを行ったか、どのようなことに困っているのか、気づいたことはあったか、どのような対策を講じてゆくか、知見の共有を図りました。



緊急事態宣言下で認知症の方にどのような影響があったかについては、面会制限を余儀なくされた施設では家族と会えない事実で混乱され、長期化に伴い季節感は無くなり感情が平板化する利用者が目立つようです。デイサービスが途絶える事で、認知症の人の生活リズムが崩れてフレイルが進行してしまう事も懸念されています。現場の対策として、老健やましろでは「ガラス越しの面会」を取り入れており、利用者さんの活気に一役買っています。また、デイサービスを再開した事業所では少しずつ利用者が増えています。デイサービスは、一度無くなった事で改めて必要性が見直されているようです。

フレイル対策としては、木津川市社会福祉協議会から自宅で出来る運動をチラシにして配布しており、精華町高齢福祉課でもフレイル対策の冊子を準備中です。当院ホームページ（お知らせ）からも、リハビリ科がフレイル対策の資料を作成していますのでご覧ください。



コロナ禍の援助者側の感情として、先が見えない状況で、自身や利用者への感染不安、施設に感染が広がった場合の受け皿の不安などが挙げられました。反対に「感染対策を意識する事で、利用者の発熱が無くなった」というプラスの発言もありました。このように良い面も悪い面も共有出来たのは意義があると感じます。

成していますのでご覧ください。

コロナ禍の援助者側の感情として、先が見えない状況で、自身や利用者への感染不安、施設に感染が広がった場合の受け皿の不安などが挙げられました。反対に「感染対策を意識する事で、利用者の発熱が無くなった」というプラスの発言もありました。このように良い面も悪い面も共有出来たのは意義があると感じます。

（裏面に続く）

今回の協議会は新型コロナウイルスの感染状況などもあり、開催までどうなるか分からずにいましたが、いざ開催してみるとオンライン参加者の発言は遠くにいても頼もしく、心に届くものでした。日頃から培った、顔の見える関係が活かされたと思います。開催に当たり、細部までご尽力いただいたサーバー室スタッフの皆様には心よりお礼申し上げます。

(地域医療連携室 臨床心理士 谷川 誠司)

## 地域包括ケア病棟“彩り”夏祭りを行いました。

### ～ 笑顔が溢れていました ～

8月19日(水)、地域包括ケア病棟“彩り”夏祭りを開催しました。全体で集団体操を行った後、魚釣り大会を行いました。コロナ感染予防のため、横並びで川釣りを想定して、各自に磁石付きの釣竿を持ってもらいました。老健やましろで借りたハッピーを着て鉢巻を巻き、祭りムードで盛り上がり、普段はなかなか見られない真剣な表情で魚を釣り、結果発表では楽しそうな笑顔が溢れていました。デイルームの窓には患者さんとスタッフが色を塗った提灯を飾り、普段とは違う太鼓がメインのバックミュージックが流れ、音楽に誘われて飛び入り参加された患者さんも、スタッフに手伝ってもらいながら楽しそうに過ごされていました。今後も季節ごとに笑顔溢れるレクリエーションが出来ればとスタッフ一同思っています。

(地域包括ケア病棟 看護師長 吉崎 浩美)



## 地域医療連携室より

### ～ 新しい日常 ～

谷川心理士からの報告にもありましたが、先日開催した「認知症疾患医療連携協議会」は、一部の方にはオンラインで参加して頂きました。“オンラインで会議を開催すること”は、慣れている方にとってはとても簡単なことだと思うのですが、私自身は初めての経験でしたので、数日前から当院のサーバー室の担当者に相談しながら準備し、当日を迎えました。

一番心配していたのが音声（会議室からの発言がオンラインで参加している方に聞こえるか、また、オンラインで参加している方の発言が会議室で参加している方に聞こえるか）でしたが、会議終了後、オンラインで参加してくださった方に確認してみると、「良く聞こえていました」と感想を頂戴し、ホッとしました。

今後もオンラインで会議に参加したり、オンライン会議を主催したりという機会が増えると思います。今回の経験を振り返ると、「こうした方が良かったかな」「こんなこともできるのでは？」と思うこともあり、今後活かしていきたいと思っています。

(地域医療連携室 室長 南出 弦)